

農工大の樹 その49



〈 解 説 〉

キリ

(ノウゼンカズラ科、キリ属の種、学名 *Paulownia tomentosa* Steud.)

キリは高さ15m、直径50cmにもなる落葉高木で、皮目の多い樹皮は灰白色です。大型の葉は対生し、写真のように4月中旬には長さ5-6cmの淡紫色の花を円錐状に付けます。自生地は中国揚子江流域、韓国鬱陵島、九州の大分・宮崎県境の山岳との説がありますが、本当の原産地は不明です。本州の中部以南ではテングス病にかかりやすいので、主な栽培地は東北地方、関東北部、新潟などですが、野生化したものは各所に見ることができます。材は日本産の材の中で最も軽く(比重0.27-0.30)、湿気を吸いにくく、通さない性質があり、狂いが少ないので、家具、器具、建具、箆筒などに古くから使われました。また、魚釣りの浮子、軟らかく均質な性質を利用して桐炭とし、研磨用、火薬用、眉墨としても利用されました。キリの紋章は菊と共に皇室の紋章であり、高貴なものとしてされてきました。これは古代中国で聖王の象徴であった鳳凰が「梧桐の木に宿り竹の実を食う」と言われたことに由来しているのだそうです。この家紋には花の数で五七の桐(中央に7つの花、両側に5つの花)、五三の桐などの種類があります。

(環境資源共生科学部門教授 福嶋 司)